

# 第6回朝見地区夏まつり夕涼み会

平成24年8月5日(日)朝見地区と朝見幼稚園が共同開催。一部は18時より朝見幼稚園の夕涼み会が開始。殿内裕哉PTA会長の挨拶の後山中光茂松阪市長が挨拶、園児たちは自分達で作った作品を販売や貰い物を家族と共に楽しんだ。二部は17時より開始、自治会、寿会、まちづくり協議会のメンバーが夜店を開店、福引大会、かき氷、焼きそば、フランクフルト、フライドポテト、綿菓子など。踊り舞台を囲んでしょんがいの音頭と踊りが楽しく繰り広げられた。松阪しょんがいの音頭と踊り保存会の応援を得る。

# あさみ会報



朝見まちづくり協議会 あさみ会報編集部

松阪市大宮田町 209-4  
朝見地区市民センター内  
電話 0598-52-0007

2013.02.28 発行  
第40号



**災害時協力企業（事業所）の紹介**  
《朝見地区内の各事業所と災害時の救出作業の協力協定を行っています》  
(大宮田) 茂谷工務店・大徳建設株式会社・上川運送株式会社・JA松阪農機センター (下七見) 東部建設株式会社 (朝田) 株式会社北川鉄工建設・葵クレーン (佐久米) 小林ファームライスセンター (立田) 宝山石油株式会社・中尾木材有限公司・株式会社ミック・鍛冶春建設有限公司・さくらテラス (古井) 有限会社松井工務店・榊産業有限公司・エムエフマツモト有限公司・岡田園芸・株式会社サンカ機工 (新屋敷) 第一産業株式会社 (上七見) 鈴木農産・佃橋本電機・奥村農産 (和屋) ススキ産機有限公司・溝口土建・井上組・有限会社安達建設 (26事業所)





**朝田寺の牡丹の開花時期に合わせて名物「あさみ田楽」を販売する。**

平成24年4月29、30日の両日朝田寺・牡丹と合わせて開催する。



今回は準備期間が短かったので寿会協力の下行う。今年で3年目の開催、協議会の収益事業の一つです。地元の古刹、朝田寺は牡丹の寺として近在では有名な寺院と協議会がコラボして行っている。この地域では、昔から農繁期を迎えるこの季節（木の芽が芽吹くころ）に細みの仲間同士が集まって交流の場として、細や班で田楽を囲んでコミュニケーションの場と

した。この時期が過ぎると農作業に入り、田んぼのおこし、稲の苗作り、水田の田植えと始まっていきます。10年ほど前は、朝田町の老人会が「花より団子」と美味しい田楽を作っていたのですが協議会が復活させて収益事業にしています

**朝見・さかな救出作戦**

平成24年5月31日朝見小学校の児童とさかな救出作戦を実施する。平成21年から始めた事業、現在は三重県の「美し国おこし・朝見の自然を考える会」の活動として、朝見小学校児童と一緒に進んでいます。生命の大切さ！朝見の自然に触れる！水生生物の観察など秋の救出、春の放流を行なっています。今回は、昨年救出した2年生が3年生となつて放流をしました。沢山の魚たちが冬場を生き抜いて、水の戻った水路に元気

に帰って行きました！朝見地区は平安期に作られた条理区割りされた地域です。三面上で作られた水路が網の目のように走っています。今回救出作戦には、三重県博物館・北村学芸員、滋賀県立大学・皆川先生に協力頂きました。また、救出時に協力を頂いている、阿部、橋本さんも応援に来てもらいました。《意義》平成21年より、朝見まちづくり協議会と朝見小学校と共同で開催しています。朝見地区内の河川は、4月から8月の農繁期は水が豊富に流れ、水田、水路では水生生物が繁殖し自然豊かな生命の営みが行われる所です。9月からは水路の水が止められ枯渇した水路では沢山の水生生物が死滅もしくはいます。この自然豊かな生物の営みを小学校の子供たちに「さかな救出作戦」として、朝見の自然、生物の観察、命の大切

さなどを知らせてもらおうと秋には救出、春には放流として開催しています。この活動には、三重県博物館学芸員はじめ、朝見の生観覧を行なって来た滋賀県立大学の先生、学生の方に協力を頂きます。平成24年5月31日 9時から11時まで 場所 朝見小学校校庭 保護池 9:00 保護池に集合 (児童三学年 約45名位) 9:00 魚を保護池からすくいとる。 ①魚の扱い方を教わる。 ②捕獲した魚の種類等教わる。 10:00 それぞれのパケツに入れた魚を放流場所まで移動する。 10:30 各児童が川に入つて直接放流する。 \*放流場所は小学校横を流れる、田んぼの水路です。

**保護した魚…元気で**

松阪・朝見小児童が放流

松阪市立朝見小学校の1～3年生88人が31日、校庭の池で保護してきたメダカやドジョウ、オイカワなど多数の水生生物をもともと生息していた近くの農業用水路に放流した。

種別が異なる用水路は通水が止められて干上がり、水生生物が野鳥やイタチに襲われることから、地元の「朝見まちづくり協議会」が3年前、校庭に池を手作りして、毎年10月に救出、田に水が戻られる5月に放流を続けている。

この日は、県立博物館の北村淳一学芸員(36)や、滋賀県立大生物資源学理学科の田川明子助教(32)の指導で、児童たちは池から魚などをバケツにすくい上げ、先生や地元の人たちと協力して放した。ザリガニやカマヤシはメダカを襲ったりいたずらしたりするため、放流はせずに飼育生物として教室で飼うという。2年生の神田明寿美さん(8)は「名前には知らないが、大きな魚を放した。幸せに暮らしてほしい」と話した。(高山敬男)



(朝日新聞の記事を転記する)

**登下校時の子ども交通安全事故から守ろうと赤色回転灯を校門前に設置する。ミツクから寄贈**  
平成24年7月19日朝見小学校校門前の横断歩道脇に標識灯を設置する。平成24年度松阪市地域元気応援事業に応募しました、見事に落選。長年の懸案である学校前での交通安全対策を各所に要望して来ました。が、今日まで実現不可でした。このような地域の要望の不可能を可能にするのが住民協議会の力なりと、応募しましたが残念でした。この対策に使用する器具を災害時協力企業の(株)ミツクに依頼して製作。太陽パネルを電源として、電気代が

いらぬ、電源のない場所にも安易に設置できる「優れ物」です。今回、見本に製作してもらいました「自立式赤色回転灯表示機」をミツク様より寄贈して頂きました。



予定では、3機設置して学校前の登下校時交通安全対策にする予定でしたが株式会社ミツク様より寄贈して頂き1機の設置する事が出来ました。これから登下校時に学校前を迂回する車両等に「子ども注意！」赤色回転灯が喚起をうながします。災害時は、避難所表示や携帯充電機能。私たちは交通安全の為に製作を依頼しましたが「この機器」の特徴は、電源が、いつでも、どこでも確保できる太陽パネル蓄電池を使用していること。赤色回転灯の部分を、ライト、サイレン、スピーカー、防犯カメラなど付け替えれば用途が広がります。下部のスイッチ部分を押しボタン、感知式にすれば自動化されます。防災、防犯、交通安全など多くの地域で多様な使い方が出来る機器です。



**根尾谷断層を視察研修する。**

平成24年6月24日(日)岐阜県根尾谷断層の記念館を視察する。約120年前の安政の大地震と言われてる。約80kmに渡り新潟方面に断層が6mも一気にせり上がって直下型の震災の恐ろしさが残る。根尾谷断層は日本列島のへそと言われ列島が折れ曲がる所とも言われる

6mづれ上がった断層、白黒の差で6mの段差が分かる。。

現在、断層が崖のようにになっている、天然記念物として保管されている(左下の土地と同じ高さだった)

江戸時代に起きた安政の大地震、壊滅状態の根尾谷の壊滅した集落

